

編集後記

今年度も皆様のご協力を賜り、「環境制御」第 38 号を発刊することができましたことに感謝いたします。今年度から環境管理センターにて勤務することになった私にとって、本誌の編集を通じてセンターの業務の多様さと重要さを改めて確認する機会となりました。

昨年 11 月に開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）にて「パリ協定」が採択されました。今年 6 月に開催しました環境管理センター公開講演会では、安井至先生から本協定の重要性と社会に及ぼすインパクトについてご講演いただいております。詳細については本誌総説をご覧ください。

6 月の講演会以降、パリ協定に関して大きな進展がありました。9 月には米国と中国が、10 月にはインドが批准、そして EU も 10 月 4 日には議会にて批准について承認されました。これを受け、今年中にはパリ協定が発効する見込みとなっています。本誌が皆様のところへ届く頃にはもう発効しているかもしれません。

我々はこれまでとは全く異なる世界で生きることになるのでしょうか。どんな世界でしょうか。楽しみとともに不安でもあります。でも、最も影響を受けるのは、いま本誌をご覧になっている我々と同世代の人々ではなく、まだ学生や生まれてきていない次の世代の人たちです。彼らは、我々以上に幸せに暮らすことができるのでしょうか。

大学で教育に携わる人間として、学生に対してどんな教育を施すべきなのでしょう。自分が知らない世界を予測しながら、その時代において役に立つであろう知識・技術を教育することはとても難しいことです。きっと、はっきりとした答えは見つからないのでしょうかから、思い悩みながら前に進んでいくしかないのだとも思っています。

新しい社会を切り開くための試行錯誤を行う、そんな機会を大学における環境管理を通じて提供していきたいと考えています。

環境管理センター 永禮英明